



久保泉だより

佐賀市立久保泉小学校

学校だより 第 5号

令和7年 5月22日

文責：校長 中村 佳代

*** 民生委員・児童委員の皆様の紹介 ***

毎月7日（基準日として）には、「地区民生委員・児童委員協議会」が行われています。地域の子どもたちや高齢者の方々を見守ってくださっている、とても頼りになる皆様です。5月7日（火）の全校昼会では、「民生委員・児童委員」の皆様に来校いただき、全校の子どもたちに紹介しました。お一人お一人に自己紹介をしていただくと、「〇〇さんだ。知っている!!」とうれしそうな表情を見せる子どもたちもいました。中には、主任児童委員さんもいらっしやいます。朝の登校時だけでなく、あちらこちらで気配りをいただいていることでしょう。これからもお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。



*** 学校探検（1・2年） ***

5月9日（金）には、1年生と2年生が一緒になって、「学校探検」を行っていました。生活科の学習の一環です。1・2年生のそれぞれが数人ずつのグループになり、いろいろな場所を回って行きます。探検する場所に到着すると、2年生がその場所の説明をしてきていました。昨年度は、



今の3年生が同じように教えてくれていたことでしょう。今年度は、自分たちが教える番だと張り切っている様子が伝わってくるようでした。校長室にもやって来てくれて、「校長室は・・・。」と説明している姿は、1年前とは違って、すっかりお兄さん・お姉さんです。1年生もたくさんのお話を聞くことができたことだろうと思います。

*** 全校昼会 ① 「生活の話」 ***

5月7日（火）の全校昼会では、「民生委員・児童委員」の皆様を紹介した後、5月の「生活の話」がありました。毎月の「生活の話」の担当は、輪番で決まっています。この日の担当は、6年担任の石井先生でした。3つのめあての中でも、特に「廊下の歩き方」について、丁寧に話してくださいました。今回は、6年生の子どもたちが数名、先生の話のサポートとして手伝いをしていて、先生と一緒に全校のみんなの前に立ちました。6年生にとっては、貴重な出番や役割の一つです。前に立つことは、全体から注目されるよい経験にもなりますし、めあてを自分事としてとらえるよい機会にもなったことだろうと思います。



＊ ＊ 新市誕生２０周年記念事業「キックオフセレモニー」 ＊ ＊



「第２号」でもお伝えしておりましたとおり、５月２日（金）には、「新市誕生２０周年記念事業」の一環ということで、本校にて「キックオフセレモニー」が行われました。佐賀市の坂井市長様や佐賀市教育委員会の丹宗教育長様、佐賀市議会の山口議長様他、たくさんの保護者や地域の皆様にもおいでいただき、式典を執り行うことができました。朝早くから、各方面から集まってくださった関係者の皆様が、準備を進めてくださいました。「２０th」の文字を、リーガース・ペゴニアの鮮やかな花々で形作っていただき、そのたくさんの鉢植えも、そのままプレゼントしていただきました。当初は、「バルーン係留体験搭乗」を行う予定で、熱気球の準備も行っていたのですが、残念ながら強風のために、体験搭乗を行うことはできなくなりました。その代わりに、子どもたち全員が、バーナーの操作体験をさせていただきました。なかなかできない体験で、子どもたちはとてもうれしそうでした。佐賀市にとって記念すべきイベントを開催していただき、ありがとうございました。

係者の皆様が、準備を進めてくださいました。「２０th」の文字を、リーガース・ペゴニアの鮮やかな花々で形作っていただき、そのたくさんの鉢植えも、そのままプレゼントしていただきました。当初は、「バルーン係留体験搭乗」を行う予定で、熱気球の準備も行っていたのですが、残念ながら強風のために、体験搭乗を行うことはできなくなりました。その代わりに、子どもたち



ち全員が、バーナーの操作体験をさせていただきました。なかなかできない体験で、子どもたちはとてもうれしそうでした。佐賀市にとって記念すべきイベントを開催していただき、ありがとうございました。



＊ ＊ ＊ 読み聞かせボランティアの皆様です！！ ＊ ＊ ＊

毎週金曜日の朝の活動の時間には、読み聞かせボランティアの皆様による「絵本の読み聞かせ」を行っていただいています。５月１６日（金）は、今年度第１回目の「読み聞かせ」の日でした。子どもたちは、この読み聞かせの時間をとても楽しみにしています。思わず笑顔がこぼれそうな楽しいお話もたくさんありますが、悲しい気持ちにさせられるお話だったり、何かについて考えさせられるお話だったりすることもあります。絵本ばかりではなく、紙芝居や劇をしてくださることもあります。一人一人が、豊かな想像力を膨らませて、お話の世界に入り込んでいることでしょう。デジタルの画面にふれる時間の方が多いかもしない子どもたちですが、ちょっとしたわずかな時間でも、本を手

にすることができる子どもたちであってほしいと思います。この時間がそのきっかけになってくれることを願います。

